

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.19 (1987) No.3

Si

Si

Long-Period Stable Operation of Blast Furnace with Low Silicon Content in Hot Metal
and Improvement in Hitting Ratio of Silicon Content

(Hiromi Nishimura) (Hidemi Akizuki) (Makoto
Yamazaki) (Kenichi Kaneko) (Yoshikazu Senoo)
(Mitsuru Kiguchi)

:

Si

Si

Si

Si

Si

si

Synopsis :

低 Si 高炉操業の長期安定化と Si 適中率の向上*

川崎製鉄技報
19 (1987) 3, 156-161

Long Period Stable Operation of Blast Furnace and Improvement in Hit Ratio of Silicon Content

Low Silicon Content in Hot Metal and Improvement in Hitting Ratio of Silicon Content

要旨

低 Si 高炉操業の長期化と Si 適中率の向上について述べる。

低 Si 含量鋼材の長期安定化と Si 逸出率の向上

152

新規技術や手法、エコ・レバーニング

を開発・管理している。

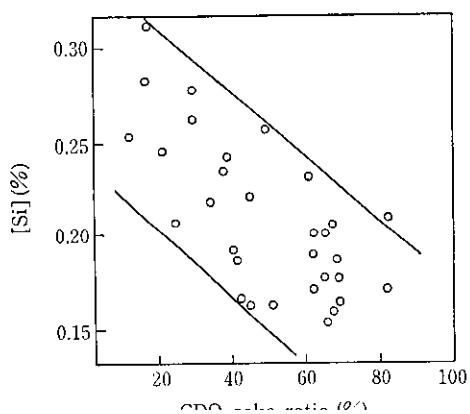


Fig. 8 Relationship between CDQ coke ratio and hot metal Si content

流比と羽口前温度の影響について述べたが、CDQ コークスは、コークス比のアップ、すなわち、熱流比をほとんど低下させることな

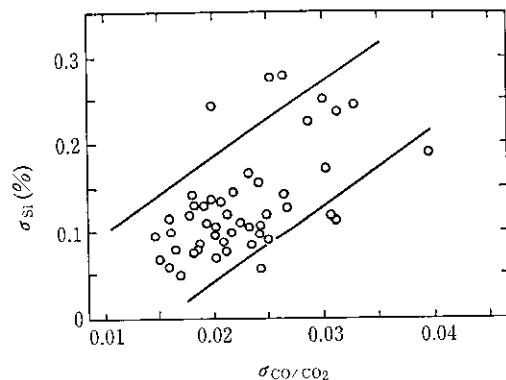
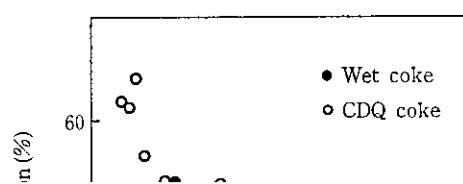
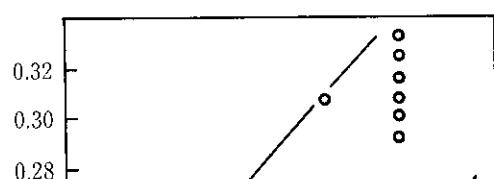


Fig. 10 Relationship between σ_{CO/CO_2} and σ_{Si}





原料炭の配合ベッドごとにコークスアッシュ中 SiO₂ を予測し、スラグ CaO/SiO₂ 比の予測管理を強化した。

Fig. 14 には、ステーブレンガ温度の日内変動と σ_{Si} の関係を示す。炉内からの Zn 排出が悪く、炉壁が付着物等で円滑なプロファイルを保てない場合には、周辺流が変動し、その結果、Si のバラツ

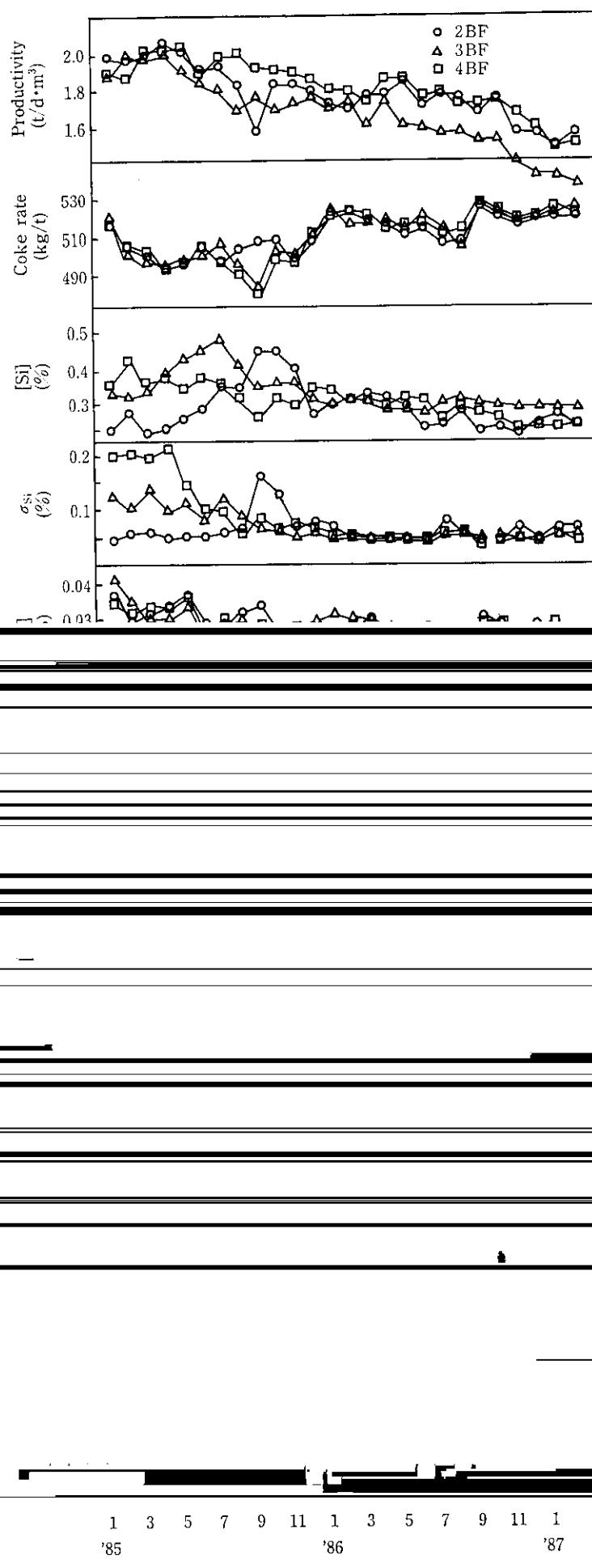


Fig. 16 Operation result

ルに安定して管理できた。

一方で、この期間に高炉の Si 含有率が 0.20~0.25% の低 Si 操

することにより、コストアップを招くことなく、製鋼ニーズを十分に満足する低 Si 鋼を長期間一連続して吹製している。